

平成28年度  
まちなかESDセンター運営報告書



北九州  
まなびとESDステーション

【まちなかESDセンター】

(平成29年3月)

# 目次

## 🏠 ごあいさつ

まちなか ESD センター長あいさつ .....	01
--------------------------	----

## 🏠 事業概要

取組みの概要・目的 .....	02
北九州 まなびと ESD ステーションについて .....	03
施設概要・事務局・運営組織図 .....	04
運営委員会・評価委員会一覧 .....	05
利用状況 .....	06
広報・PR・財務 .....	07

## 🏠 実施事業

プロジェクト .....	08
●キタキュープロモーション ●モビリティプロジェクト ●子ども・若者の夢を紡ぐプロジェクト ●green bird ●idea+ <sup>アイディアプラス</sup> ●ガーベラプロジェクト ●カンボジア教育支援プロジェクト「ANAKOT」 ●ハロウィンプロジェクト ●食から始まる健康プロジェクト ●食品ロス削減学生プロジェクト 他	
まなびと講座 .....	20
まなびとキャンパス .....	21
各種イベント等 .....	22

## 🏠 まなびとリーダー・マイスター認定式 .....

	23
--	----

## 🏠 センター利用者の声

学生の声 .....	24
地域の方の声 .....	27

## 🏠 5年間を振り返って .....

	28
--	----

## これからも北九州の地から、地球の未来を担うたくましい人づくりを進めます

北九州地域、そして世界で活躍する人材の育成や、先進的な技術革新と知の創出による地域産業の育成や活性化、そしてこの地域への人口集積等を考えるとき、地域に根ざす大学の存在は重要であり、その果たすべき役割には大きな期待が寄せられています。

地方創生が国・地方を通じた大きな時代的課題となっている今日、地方が将来にわたり持続可能な発展を確かなものにするためには、地域に貢献する人づくりが重要です。地域に共存する大学がともに手を携え、大学間の協働により、優れた人材を育成することは、地方創生に資する取組みのひとつです。

文部科学省は、この現代社会の要請に応え、平成 24 年度から、大学が相互に連携する教育システムの構築を目指す取組みを支援するため、「大学間連携共同推進事業」をスタートしました。この事業の採択を受け、国公私立の設置形態を超え、様々な専門分野を持つ市内の大学が協力し、地域と環境をテーマに情報の発信、生活の場面での課題の発見と解決に向き合う共通のセンターとして、市の中心市街地に参加 10 大学が協働する地域活動拠点『まなびと ESD ステーション』を設置しました。

開設以来 4 年間、このステーションを拠点として、連携大学による授業をはじめ、ステークホルダーの皆様のご尽力のもと多種多様な事業を展開し、計画を大きく上回って事業目的を達成できたのではないかと考えています。

平成 28 年度が最終年度となりましたが、これまでの、取組みの実績と成果に対し、市民の皆様をはじめ、「ESD の全市的な推進」を掲げる北九州市からも非常に高い評価を受けています。新たな年度からは、連携大学はもちろんのこと、北九州市や ESD 協議会など地域のステークホルダーの皆様とともに連携を広げ、さらには昨年度採択を受けた文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」と連動させ、より一層事業の推進を図っていききたいと思います。

国の補助期間終了後も、本事業の継承・発展を多くの市民の皆様と連携しながら、地域の活力向上に繋がる取組みを積極的に推進し、北九州の地から、地球の未来を担うたくましい人づくりを進めていきます。



近藤倫明（まちなか ESD センター長）

北九州市立大学 学長  
北九州 ESD 協議会 代表  
[専門分野] 認知心理学

### 取組の概要

平成24年度大学間連携共同教育推進事業で選定された「まちなかESDセンターを核とした実践的人材育成」は、地域再生の核となる大学づくりを推進するため、北九州環境未来都市において地域（社会・産業・行政）と大学が連携し、「環境の取組を理解し、持続可能な発展を拡げることのできる人材」、「課題に対する実践力を備えた人材」、「卓越したコミュニケーション力で、人と協働できる人材」の育成を行う取組である。

具体的には、既存の座学を中心とした教育プログラムに加え、国連において推進されているESDを中心とした実践的教育に取組むことで上記能力を培うものであり、市の中心市街地に参加10大学共同の地域活動拠点となる『まちなかESDセンター』を設置し、専属の特任教員や事務員を配置し、専門分野を異にする教員が得意分野を持ち寄る事による効果的な教育や、大学間の垣根を越えた実践的教育を統合かつ効率的に実施するものである。

### 事業の目的

- ・ 産業界からの要請の強い、実践的活動を通じた課題発見能力・解決能力の育成、高度な協働的コミュニケーション能力等を持つ学生をESD実践プログラムによって育成する。多様な専門性を有する連携校と協働することで、他分野において応用可能な実践力・協働力等のマネジメント能力の向上を目指す。
- ・ 地域社会（住民）からの要請の強い、高齢化社会への対応等、地域社会が抱える様々な社会的な課題を解決できるようなESDの素養を有する学生の育成を行う。
- ・ 教育系の公的機関からの要請が強い、小中学校へのESD教育の普及に対して、授業プランニングや講師派遣などを通じて積極的に貢献する。
- ・ 北九州市から要請の強い、「北九州環境未来都市」を推進するためのESDの素養を有した地域リーダーの発掘と育成を行い、課題解決型学習を展開する。

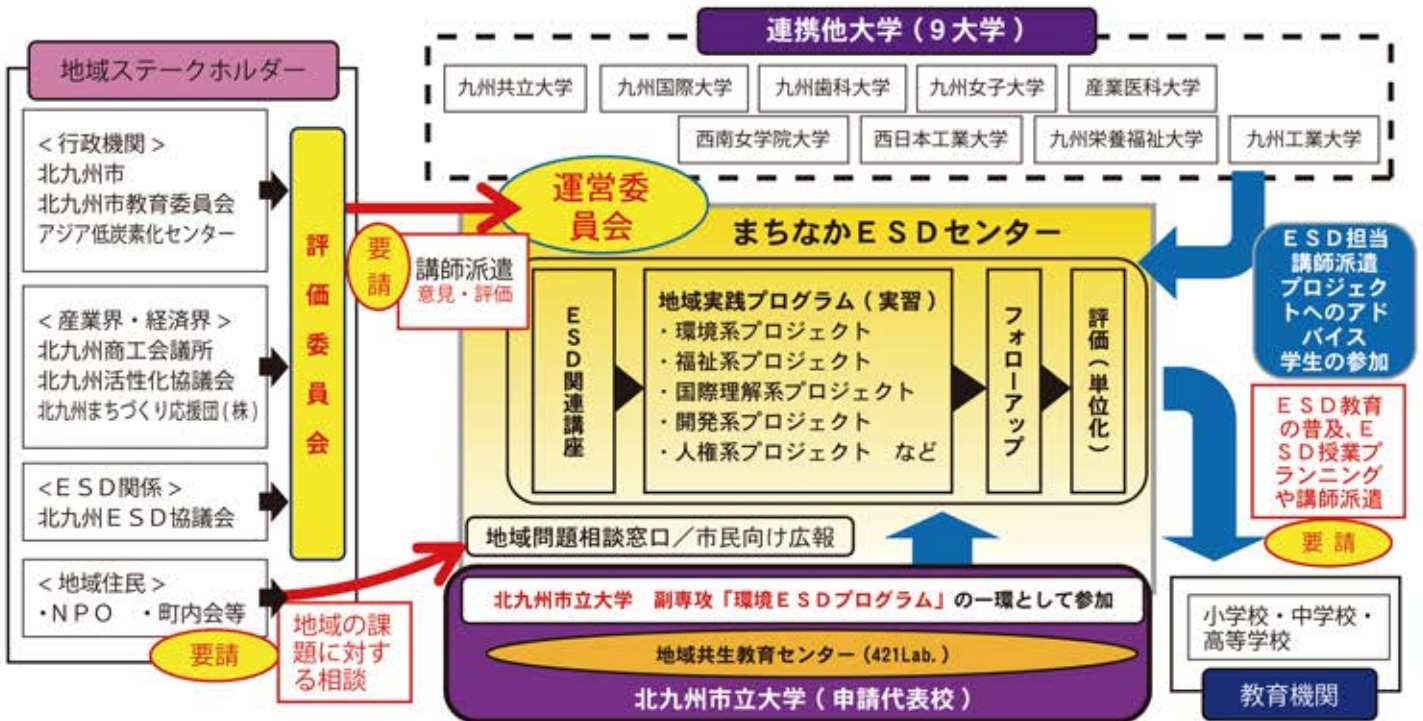


平成 24 年度「大学間連携共同教育推進事業」選定取組

取組名称：まちなか ESD センターを核とした実践的人材育成

取組大学：北九州市立大学（代表校）、九州共立大学、九州国際大学、九州歯科大学、九州女子大学、産業医科大学、西南女学院大学、西日本工業大学、九州栄養福祉大学（協力大学）、九州工業大学（協力大学）

地域再生の核となる大学づくりを推進するため、北九州環境未来都市における地域（社会・産業・行政）と大学が連携し、「環境の取組を理解し、持続可能な発展を拡げることのできる人材」、「課題に対する実践力を備えた人材」、「卓越したコミュニケーション力で、人と協働できる人材」の育成を行う取組である。具体的には、国連によって国際的に推奨されている ESD の教育理念を導入し、環境・福祉・国際理解・開発・人権・平和などの観点から、実践的な地域活動によって地域再生を目指すものである。そのため、北九州市の中心市街地に参加 10 大学共同の地域活動拠点となる『まちなか ESD センター』を設立し、地域再生のための拠点とする。



施設概要

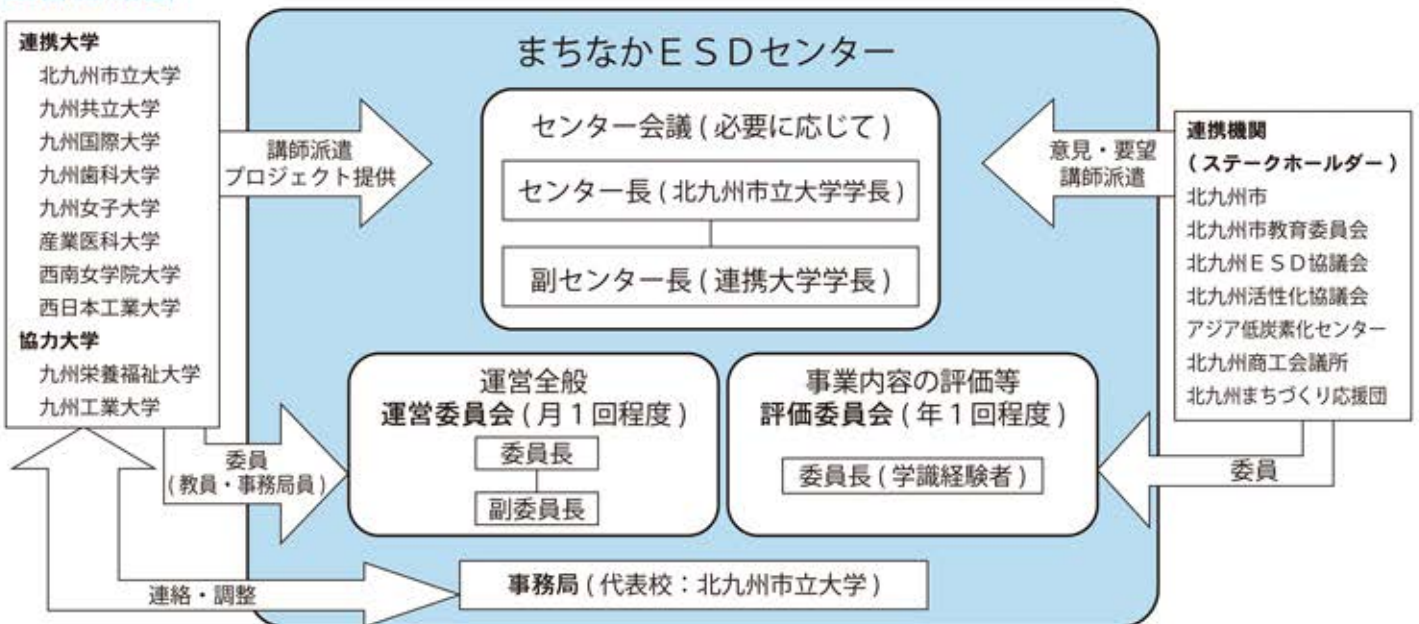


- ・所在地 〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町3丁目3-20 中屋ビル地下1階
- ・ホームページアドレス <http://manabito.kitakyu-u.ac.jp/>
- ・開館時間 11:00～19:45
- ・休館日 毎週月曜日、祝日・年末年始
- ・施設内容 スタジオ10室（収容人数：各部屋約8名）  
 セミナースペース2室（収容人数：約28名、約70名）  
 キッチンスタジオ

事務局

特任教員	宮原 昌宏
	岩永 真一
	原水 敦

運営組織図



## 運営委員会

九州共立大学	経済学部 教授	成富 勝
	教務課 副主幹	石橋 道典
九州国際大学	経済学部 教授	野村 政修
	経済学部 教授	三輪 仁
	学務事務室 課長	的山 将士
九州歯科大学	歯学部 教授	秋房 住郎
九州女子大学	共通教育機構 講師	細井 陽子
	総務課長	井上 功一
	事務職員	牛島 治美
産業医科大学	学生部長	小林 英幸
	大学管理課 課長	手島 聡一郎
	学生課 課長	吉村 恭子
	課長代理	古賀 秀忠
西南女学院大学	栄養学科長	清末 達人
	栄養学科 講師	境田 靖子
	生活創造学科 教授	加來 卯子
	生活創造学科 准教授	領木 信雄
	会計課係長	林田 正雄
西日本工業大学	建築学科 講師	梶谷 克彦 (運営副委員長)
	デザイン学部 事務室主査	仕田原 英寛
九州工業大学	工学研究院 准教授	徳田 光弘
	学務課	本河 英展
九州栄養福祉大学	事務部長	今道 正樹
	教務課	河端 健司
	理学療法学科 准教授	石橋 敏郎
	作業療法学科 准教授	深町 晃次
北九州市立大学	法学部 教授	三宅 博之 (運営委員長)
	基盤教育センター 教授	眞鍋 和博
	基盤教育センター 准教授	廣川 祐司
	地域戦略研究所 教授	内田 晃
	地域・研究支援課 課長	河野 高志
	地域・研究支援課 地域貢献係長	小嶺 一彰
	地域・研究支援課 地域貢献係	堀田 温子

## 評価委員会

立教大学	教授	阿部 治 (評価委員長)
北九州ESD協議会	顧問	三隅 佳子 (副委員長)
北九州市	環境局環境学習課長	池田 義徳
北九州市教育委員会	指導第一課教育振興担当課長	赤瀬 正信
北九州活性化協議会	専務理事	山崎 脛
北九州市環境局アジア低炭素化センター	担当課長	長濱 信秀
北九州商工会議所	サービスセンター統括部長	馬渡 哲也
北九州まちづくり応援団	取締役本部長	重永 佳己

## 利用状況

### 利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生	941	929	899	891	775	803	947	923	950	828	1,178	918	10,982
社会人	562	432	487	570	609	662	572	643	648	629	655	1,069	7,538
合計	1,503	1,361	1,386	1,461	1,384	1,465	1,519	1,566	1,598	1,457	1,833	1,987	18,520

### 会員登録者数

(単位：人)

大学生以外	学生											大学生合計	合計
	北九州市立大学	九州栄養福祉大学	九州共立大学	九州工業大学	九州国際大学	九州歯科大学	九州女子大学	産業医科大学	西南女学院大学	西日本工業大学	10大学以外		
532	367	12	40	22	18	3	78	12	82	37	93	764	1,296

### 視察受け入れ実績 (H28.4～)

(単位：人)

日付	視察受け入れ団体名(大学、企業、NPO等)	人数
9月9日	日本福祉大学	4
10月17日	立命館アジア太平洋大学	3
2月	静岡大学	1
3月7日	福井工業大学	2
3月9日	苫小牧工業高等専門学校	8
	合計	18





メディア掲載実績

日付	メディア	内容
平成28年 8月1日	新聞	朝日新聞
〃 8月20日	新聞	リトル・ママ新聞北九州
〃 9月24日	新聞	朝日新聞（突出）
〃 9月28日	新聞	西日本新聞
〃 9月28日	チラシ	朝日秋観光 福岡
〃 9月	雑誌	ドンナマンマ夏号
〃 9月	雑誌	ナッセ9月号
〃 10月	雑誌	ホットペッパー北九州10月号
〃 10月6日	オンライン	朝日新聞
〃 10月6日	テレビ	FBS福岡放送「めんたいPLUS」
〃 10月7日	新聞	毎日新聞
〃 10月7日	新聞	読売新聞
〃 10月16日	新聞	NHKニュース
〃 10月17日	新聞	毎日新聞
〃 10月17日	新聞	読売新聞
〃 10月18日	テレビ	FBS福岡放送「めんたいPLUS」
〃 10月20日	テレビ	FBS福岡放送「めんたいワイド」
〃 10月20日	テレビ	JCOM番組
〃 10月26日	テレビ	NHKニュースブリッジ北九州
〃 11月9日	テレビ	RKB毎日放送「旬感北九州」
平成29年 2月5日	新聞	朝日新聞
〃 2月	雑誌	Moving2月号
〃 3月3日	新聞	毎日新聞

予算・決算

(単位：円)

	平成24年度決算 (補助金確定額)	平成25年度決算 (補助金確定額)	平成26年度決算 (補助金確定額)	平成27年度決算 (補助金確定額)	平成28年度予算 (補助金交付額*1)
北九州市立大学	36,078,480	44,257,084	45,220,711	35,678,972	26,469,000
九州共立大学	619,708	240,730	212,400	167,633	148,000
九州国際大学	1,273,755	611,119	11,329	0	42,000
九州歯科大学	1,320,231	1,974,860	987,274	1,170,551	1,419,000
九州女子大学	1,327,537	1,948,544	1,567,480	1,516,300	1,430,000
産業医科大学	92,040	11,160	11,954	5,220	20,000
西南学院大学	777,532	1,134,623	1,301,760	1,050,810	684,000
西日本工業大学	1,245,408	791,008	204,935	343,498	210,000
合計	42,734,691	50,969,128	49,517,843	39,932,984	30,422,000

\*1 平成29年3月31日現在での予定

## 実施事業【プロジェクト】



# キタキュー プロモーション

参加者人数 学生7名

### 【概要】

#### ■活動目的

市民や学生のシビックプライドの醸成と、語り合いによる新しい未来づくりのきっかけを創造します。

#### ■活動の内容

活動の中心は「語り合い」の場の創造です。情報の収集研究にとどまらず、ダイバシティーなステークホルダーを集め、質の高い対話から未来を描いていく場をデザインしています。

#### ①語り合いの場の創造

PTA 協議会などの主宰する研修会や、地域住民や市役所などからのご依頼をうけ、ワークショップの企画から運営までを行っています。多様な人々の語り合いの場から来々に向けての新しいアイデアや、実際のチームビルディングからアクションまでを喚起することで、よりよい社会へつなげていく活動です。

#### ②学生 × 社会

大学生が自ら考える企画です。北九州市内で「自分の夢を持って、生き活きと人生を送っている人」を探し、学生 × ○○を開催しました。○○の中に入るテーマは、「選挙」だとか、「未来に向けて勇気をもって挑戦している人たち」など、学生が関心のあることです。

4年間の活動の中で、大手化学メーカーの研究開発員、美容室経営者、デザイナー、建築士、NPO 経営者、若手起業家ミュージシャンまで幅広い社会人に会うことができました。輝いている大人の方々が共通して持っている「だれかのために寄り添い、自分ならではの役割をもち、その役割の中で自身を表現している」姿にふれ、自分と向き合い、未来に向けてワクワクとすることができました。

### 【学生の教育効果】

ワークショップの設計を行うためデザイン思考とファシリテーション力が挙げられます。自分たちがやりたいこと

ではなく、ワークショップに参加する人がどんな人で、どんな価値を提供するののかをつきつめて設計をしていきます。そのためにはリアルな情報収集と、高度な想像力が必要です。また、場をデザインしていくファシリテーターとして、その場の空気を読みながら、ゴールに向けて臨機応変に、全員を巻き込んでいく技術が要求されます。「話したことがなかった方と、年齢、役職を超えて以前からの仲間のような感覚の中、本音での対話から全員が様々なアイデアを出せた」といった多くの声をいただき、質の高いWSを納品できるようになりました。昨年までのPTAや学生のWS、イベントが評価され、企業や行政からオファーをいただき、それぞれの課題解決のための研修会や、調査・提案などの活動に広がっています。「対話から未来を創造する」ことができる学生の育成とそれを通じて、北九州市全体の活性化に寄与しています。

### 【活動報告書】

#### ①語り合いの場の創造

- ・PTA ワークショップ（以下WS）会長研修や単独の中学校など延べ4回450名の参加者に対話の場の提供
- ・槻田中学校区からの依頼で、地域住民による「子どもたちを中心にしたまちになる」というテーマで100名近い地域住民の方が参加したWSの開催。
- ・北九州市の高齢者向けの施設でのWSなど。

#### ②学生 × ○○

- 学生 × ビジネスマン（仕事が楽しいと人生は楽しい！）
- 学生 × 食（食をテーマに豊かに生きるを考える）
- 学生 × 選挙（自分たちの未来は自分たちで選択する）
- 学生 × フェアトレード（世界の平和を願う）



## 実施事業【プロジェクト】



# モビリティ プロジェクト

参加者人数 学生7名

(定期的なボランティア活動には毎回それ以外に10名前後が参加)

### 【概要】

#### ■活動目的

モビリティ（移動性）を良くすることで、暮らしやすいまちづくりに寄与します。

#### ■活動の内容

NPO 法人タウンモバイルネットワーク北九州の事業活動と協働しモビリティをより良いものにする活動です。

主な活動は3つ

#### ①北九州サイクルアカデミーの開催

大会〔10月29日（土）〕の開催をモビリティデザイン研究会の一員として参加します。協賛金の営業活動、イベントの企画・運営、参加者のおもてなしなどを担います。この大会では、環境未来都市である北九州らしい移動手段の自転車に重点を置き、人やクルマとの定行空間の共有意識を高め、運転マナーの向上・交通ルールの遵守などを模範的に示し、歩行者や自転車も、クルマも、バスやトラックなどの大型車両も「安全で安心して移動できる環境を研究し自己啓発を目的として開催します。

#### ②放置自転車を減らす活動 Keeple

定期的に小倉駅周辺を学生と社会人で、駐輪対策及び自転車の盗難防止（ツーロック）、街なかゴミ拾い、朝の挨拶運動などの啓発・啓蒙の取り組みを行います。

#### ■学生の教育効果

協賛金の営業活動を通じてコミュニケーション力、交渉力を身につけました。公共交通や自転車の利用の仕方を通じ、まちづくりに関する知識を身につけました。

### 【活動実績】

#### ①北九州サイクルアカデミーの開催

「親子で楽しくマナーを学ぶ」ことをコンセプトに北九州交通公園で開催し、多くのファミリーが参加し笑顔あふれる大会となりました。

59件の企業や個人の方から、資金や物資のご協賛をいただきました。

#### ②Keeple

月に2回定例で、小倉駅周辺で活動を行いました。毎回20名前後の市民と学生が参加しています。活動開始から小倉北区の盗難自転車の数が30%減少し、警察から表彰をされました。その活動から、駅前に駐輪できるスペースを提案していく活動につながっています。

警察や、市役所の方々と地域の課題解決に寄与し、収益を上げながら地域に大きな貢献をしているNPO法人と協働し、大きな学びを得ることができています。知識を得るだけでなく、課題を明確にし、そのために何をするかを一から考え、結果にこだわる活動からPBLを実践しています。



## 子ども・若者の夢を紡ぐ プロジェクト

参加者人数 学生のべ180名



### [概要]

#### ■活動目的

子ども・若者が様々な体験とナナメの関係での対話によって、お互いに夢を紡ぎあうきっかけを届けることを目的としています。

#### ■主な活動内容

##### ①キャリア学習プログラム「カタリ場」

大学生などが、高校生の主体的な行動のきっかけを届けるキャリア学習プログラムです。過去15年間で全国1,300校、22万人の高校生の背中をおしてきました。2014年度より実施（一般社団法人ピープラスと連携）

##### ②ヤングアメリカンズ(YA)キッズサポーター

ヤングアメリカンズは、音楽を通じた教育ワークショップ「ミュージックアウトリーチ」で、これまで世界各地で55万人が参加しました。2015年に九州初開催を北九州で実施しました。50人のアメリカ人を中心としたYAキャストと共に、3日間大学生などが参加者をサポートしました。

(NPO法人じぶん未来クラブと連携)

##### ③小学生を対象とした教育キャンプ

国際交流・自然体験・こども主体の3つを主軸にいた教育キャンプを実施しています。四季を感じる1泊2日のキャンプ「森語り体験キャンプ」、夏休みの7泊8日のキャンプ「地球列車みらい号」を学生が企画・運営しています。(Uppleと連携)

### [活動実績]

#### ①「カタリ場」

・県内14高校2,524名の高校生に実施し、延べ577名の大学生が参画しました。

【生徒の評価（2016年3月まで）】

授業の満足度：87.01%（平均）

#### ②ヤングアメリカンズ

・北九州市教育委員会との共催で、ヤングアメリカンズ・イン・北九州を6月24日～26日に北九州ソレイユホールで開催し、小学生から高校生まで280名が参加しました。また、長崎では長崎市民会館で6月11日～13日に行われ120名が、福岡では九州大学椎木講堂コンサートホールで6月18日～19日に行われ120名が参加しました。また、キッズサポーターとして北九州会場で13名が、長崎で8名が、福岡で9名が運営に携わりました。

#### ③教育キャンプ

・「森語り体験キャンプ」は、年4回平尾台、糸島で実施。小学生のべ参加者80名でした。学生ボランティア延べ43名が企画から参画しました。

・「地球列車みらい号2016～Way to happiness～」は、平尾台で7泊8日実施。小学生38名が参加し、学生ボランティア18名が企画・運営に参画しました。

#### [その他]

・すべての企画はプロジェクトベースで、学生が参画しました。



## 実施事業【プロジェクト】



# green bird

参加者人数 学生 10 名

### 【概要】

「きれいな街は人の心もきれいにする」をコンセプトとした、そうじを見せる活動として日本全国にチームを持つNPO法人 green birdの1つのチーム、北九州チームとして活動をしています。活動内容は「街のそうじ」で、活動エリアは小倉魚町が毎週火曜日・毎月第1土曜日、毎週金曜日が小倉南区北方、毎月第3木曜日が黒崎と3拠点でそれぞれ大学生のリーダーがいて活動を行っています。運営メンバーは10名ですが、そうじ活動への参加は自由で誰もが参加できるため、大学生が中心ではあるものの、高校生や中学生、小倉に拠点を置く企業からの参加もあります。自主的なそうじ活動の他にも、北九州市内で開催されるイベントなどとコラボレートした出張そうじを行っており、小倉祇園やわっしょい百万夏まつりでの活動を行いました。そうじという誰もが簡単に取り組める活動の運営を行うことで、ステーションの認知を広げ、環境活動への入口として広報活動を行ったり、年齢・職業の違う多様な人たちとのコミュニケーションをとることや、コラボレートによる企画・調整力などを身に付けることも目的としています。

### 【活動報告書】

計 120 回開催

延べ参加者数：2,653 名（平成 29 年 1 月 31 日時点）

#### ▶小倉そうじ

毎週火曜日 18 時 30 分～、毎月第 1 土曜日 13 時 30 分～

#### ▶北方そうじ 毎週金曜日 16 時 30 分～

#### ▶黒崎そうじ 毎月第 3 木曜日 18 時 30 分～

#### <主なイベント>

平成 28 年 7 月 17 日（日）

小倉祇園そうじ 参加者 40 名

平成 28 年 8 月 6,7 日（土日）

わっしょい百万夏まつり 参加者 113 名

平成 28 年 10 月 8,9 日（土日）

エコライフステージ 参加者 82 名

### 【活動実績】

手ぶらで気軽に参加することができる地域活動のため、市内の大学生や高校生が参加をしています。また、小倉に拠点を置く企業の参加もあり、定例活動以外のコラボレートが少しずつですが増えてきています。運営チームとして、これら外部の企業・団体との打ち合わせや調整、参加者への円滑なコミュニケーションや、安全な運営のオペレーションなどを経験しています。

## 実施事業【プロジェクト】



アイディアプラス  
i d e a +  
参加者人数 学生 5名



### 【概要】

「地域の魅力を発掘し発見」「地域・企業・学生のつながりを推進」を目的として、北九州まなびと ESD ステーションの講座・イベント「まなびとキャンパス」を、企画・運営するプロジェクトです。北九州にいる人や出来事にスポットを当てて、講座を企画したり、地域課題への解決を講座としてアプローチしたり、大学生同士の学び合いの場を企画していきます。講座・イベントでは、講師との事前打ち合わせから、当日の運営に関するスタッフミーティングやチームワークなどの運営計画づくりを通して、プロデューサーとして人・モノ・お金・情報の流れを把握し、動かしていく実践の場となります。北九州の人・街のことを知ることで街に愛着を持つシビックプライドの醸成にも繋がり、講座・イベントの企画の回数を重ねることで、自ら積極的に動き、企画力・調整力・チームワーク・リーダーシップなどを学び、実践することができるプロジェクトです。

### 【活動実績】

北九州のまちに根差した講座・イベントを企画することで、街の中でのネットワーク構築力、企画力・調整力、参加者や講師との対話を促すためのファシリテーション力など、人・モノ・金・情報を動かすプロデュース力を実践・学ぶことに繋がっています。

### 【活動報告書】

・延べ参加者数 179名  
5月28日(土)・聞いて、歩いて、作って、食べる。  
～自分だけの、こがねカレー～ 参加者 23名  
7月9日(土)・カメラを持って出かけましょ。  
～写真からみる小倉の台所～ 参加者 11名  
8月18日(木)・『できるようにになりたい』をかなえる  
～浴衣講座～ 参加者 15名  
10月19日(水)・COFFEE TIME  
～美味しい珈琲を味わう～ ※台風のため中止  
10月29日(土)・市場にちょっとスパイスを♪  
～カレーからはじめる魅力づくり～ 参加者 10名  
12月10日(土)・ナンバー1よりオンリー1?!  
～自分だけのオリジナルマップ～ 参加者 10名  
12月18日(日)・カメラを持って出かけましょ。  
～写真からみる夜の小倉のまち～ 参加者 11名  
H28年1月14日(土)・本格ガトーショコラづくりに挑戦!  
～1人でカフェを経営した大学生に学ぶ～ 参加者 15名  
H28年1月29日(日)・Gear Up!  
～ジブンをちょっとのぞいてみよう～ 参加者 8名  
その他に、ファシリテーションやプレゼンを学ぶ  
idea+ゼミを毎月開催 延べ参加者 76名



## 実施事業【プロジェクト】



# ガ ー ベ ラ プロジェクト

参加者人数 学生 6名

### 【概要】

大学生などの若い世代へ「キャリア形成」「働き方」「デートDV」「性別による社会的ギャップ」などの男女共同参画のメッセージを伝えていくプロジェクトです。北九州市男女共同参画センター・ムーブと連携し、「ムーブフェスタ」でのイベント企画・運営や、独自に企画した講座・イベントを展開しながら、メンバー内での勉強しあい、知識を共有する場を設けるなど、学び合いながら情報発信する活動を展開するとともに、大学生の「男女共同参画意識調査」を行い、広報誌としてレポートを発行しました。講座としては「男女の違い・恋愛コミュニケーション」を学ぶ講座、男性が「妊婦を体験」しまちあるきをする企画を行いました。

### 【活動実績】

- ▶ 講座企画、実施（延べ参加者 49名）
  - ・ 7月9日（土）・ムーブフェスタ  
「輝く女性のキャリアアカデミー」参加者 8名
  - ・ 12月10日（日）・まちへでかけよう！  
～もしオレがニンプになったら？～ 参加者 10名
  - ・ H29年1月21日（土）・恋愛コミュニケーション入門  
参加者 31名
- ▶ 男女共同参画意識調査、レポート発行  
大学生 228名にアンケート調査、  
レポート（B4版・12P）200部発行し配布・設置

### 【活動報告書】

平成 28 年度は、大学生にとって「男女共同参画」がどれくらい認知度があり、どのような知識や関心があるのかのアンケート調査を行い、レポートにまとめて紙媒体として発行することを行いました。また講座として「働き方」に関する企画や、男性の「妊婦体験」をする企画を行いました。また毎月勉強会を開催し、男女共同参画についての見識を広げ、イベントや講座の企画・運営を重ね、自ら学びそれを広げる主体性を身に付けることができます。



## カンボジア教育支援 プロジェクト 「ANAKOT」

参加者人数 学生 67 名



### 【概要】

#### ■活動目的

カンボジア教育支援プロジェクトの愛称は、「ANAKOT」です。カンボジアの言語クメール語で「未来」を意味します。西南女学院大学、北九州市立大学の学生を中心として構成されたメンバーは、カンボジアの子どもたちの教育支援を行うことを目的として活動しています。

その中心の活動の1つが NPO 法人 e-dream-s と連携した村の中学校・高校への英語の教科書・絵本の寄贈です。活動では様々な方法で、教科書・絵本の寄贈に必要な資金を集めています。その1つが、地域の洋菓子店「ドレスデン」との協力で開発した、カンボジア特産の黒胡椒を活用したクッキーの販売です。販売先は、地域の祭りやイベント、大学祭、大学生協などと幅広く、現在では注文をいただくまでに成長しています。

また、現地の方々との交流も推進しています。日常的には SNS を活用したコミュニケーションを行いながら、現地の生徒との交流を行いました。また、支援を続けている村への訪問などを中心としたスタディツアーを開催し、9月に7名、2月に2名、3月に9名の学生が参加しました。

活動を通して、異なる文化や環境のもとで生きている方々の生き様を知り、地球上に生きる様々な人々のことを尊重する姿勢を学んでいます。

### 【活動報告書】

- ・所属大学別のミーティング（週1回程度）  
合同ミーティング（月1回）
- ・小倉祇園出店
- ・カンボジア胡椒クッキーづくり、販売  
（大学祭2回、地域イベント、大学生協2か所）
- ・募金箱の設置と募金活動  
（設置：大学生協1か所、募金活動：地域イベント、大学祭）
- ・高校生や市民向けにプロジェクトの紹介プレゼン
- ・スタディツアーの開催

### 【活動実績】

参加学生が37名に増加しました。全体リーダーと共に大学別リーダーを設け、2人を中心に活動を活性化させました。今までの黒胡椒クッキーの売り上げ・募金を合わせると、支援金額は20万円を超えました。

また、スタディツアーやカンボジアの人々との日本での交流を通して、プロジェクトの目的を再認識すると共に、学生自らの主体的な行動を引き出すきっかけとなりました。そのような活動は、地域からも認められ、海外学生や地域の勉強会などで活動報告の機会をいただき、英語力を鍛えるきっかけや情報発信する力を身に着けることもできました。





実施事業【プロジェクト】

## ハロウィン プロジェクト

参加者人数 学生 28 名

### 【概要】

#### ■プロジェクトが向き合う地域課題

北九州が製鉄産業で栄えていた頃、小倉の中心市街地は、周辺地域からあこがれの念をこめて「まち」と呼ばれていました。しかし、近年の産業構造の変化により、徐々にその活力は失われています。「こくらハロウィン」は、かつて「まち」とよばれた中心市街地の求心力を「仮装」で取り戻す学生プロジェクトです。参加学生は、まちづくりのアクターの方々と連携しながら、ハロウィンイベントの企画・運営を行なっています。

#### ■プロジェクトの展開

この地域イベントは「こくらハロウィン実行委員会」が主催しています。そして、その実行委員長のもとでワーキンググループとして活動するのが学生プロジェクト組織で、とても重要な役割を担っています。参加学生は、毎年10月に行なわれるわずか7時間のイベントのために、半年間をかけてプロデュースを行ないます。そして、プロジェクトの中で、小倉中心市街地のことを学び、課題解決力・コミュニケーション力・自主性を身につけていきます。こくらハロウィンは平成25年から開始し、今では「西日本最大のハロウィンイベント\*1」にまで成長しました。

### 【活動報告書】

- ① 広報企画の立案・実施
- ② 地域商業店舗・施設との連携企画立案・実施
- ③ イベント企画立案・運営
- ④ ボランティアスタッフマニュアルの作成
- ⑤ ボランティアの育成
- ⑥ 来場者・参加者に対するアンケート実施・分析

### 【活動実績】

巨大イベントとなったこくらハロウィンの運営には、地域ボランティアの存在が不可欠です。このイベントを継続発展させるため、28年度のテーマは、ボランティアスタッフの満足度を向上させ、毎年関与してくださる熟練ボランティアを育成することとしました。学生スタッフは、地域活性を目指す約100人の高校生をディレクションするため、マニュアルの作成や事前ミーティングの運営に奔走し、満足度100%のイベントを創出しました。仮装を競い合い、中心市街地をパレードするこの地域イベントには、約2,200名の参加者と、約20,000名の来場者が集まりました（平成28年実績）。そしてこの一日のイベントの経済波及効果は、約2億1千万円\*2にのぼり、地域の経済活性にも貢献しました。

\*1 市民による仮装パレードの規模で西日本最大

\*2 平成28年の調査結果を、福岡県経済波及効果分析ツールを使用して推定

## 実施事業【プロジェクト】



# 食から始まる健康プロジェクト

参加者人数 学生 13名

### 【概要】

北九州市食育に関する実態調査（2012）によると、「朝食を毎日食べる人の割合」は20歳代男性で48.6%、女性で58.6%、「家庭で調理した夕食を食べる頻度」は20歳代男性で毎日が28.6%、女性38.1%とすべての世代の中で最も低く、他に「食育についての関心度」は20歳代男性で関心があると答えた者は22.9%、女性で33.8%と、若い世代の食に関する問題点が数多く抽出されています。また北九州市の男性の平均寿命78.95と健康寿命77.34の差は1.61年、女性の平均寿命86.46と健康寿命の差は3.68年と、全国平均男性1.47、女性3.23と比べ長く、高齢者の低栄養やロコモティブシンドロームなどによるQOLの低下が危惧されています。

市民が健康でいきいきとした生活を営み、活力のある社会を実現するために、食と健康の関係を学び、市民の健康増進に関する地域活動を展開します。

### 【活動報告書】

- 普段の食事の栄養価やエネルギー摂取量が瞬時にわかるSATシステムを使った食事診断を、商店街を訪れた市民の方向けに実施して、出力された診断結果を元に簡単な食事改善のアドバイスを行いました。2016年度は5,6,7,10,11月の計5回実施し、延82名の方の診断とアドバイスを実施しました。
- 北九州市保健福祉局から委託を受け、「若い世代の食育推進」事業に取組みました。「野菜摂取量増加」を目的に、レシピを作成（48品）、調理工程の動画を作成し、facebook, TwitterといったSNSを活用した普及啓発活動に努めました。

### 【活動実績】

- 本プロジェクトに参加している学生は管理栄養士養成校の学生が中心のため、市民と直接かかわり「食事の診断結果をその場で判断し、アドバイスをする」活動は、栄養士・管理栄養士としての実践的スキルの獲得に繋がっていると思われます。
- 2016年から開始した第3次食育推進計画においても「若い世代の食育推進」が重点課題とされており、市民の健康増進に貢献できるよう活動しています。



## 食品ロス削減学生プロジェクト

参加者人数 学生 32 名

### 【概要】

賞味期限が終わりに近づいている食品、検品のため開封された食品、家庭での冷蔵庫の中の賞味期限が切れた食品など、日本全国には年間約 650 万 t ともいわれる食品が廃棄されています。なんとという無駄でしょう。それらの中には十分に食べられる食品が含まれています。

他方、「子どもの貧困」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？非正規採用のため、親の収入が極端に低く、劣悪な環境に置かれている子どもはたくさんいます。子どもの貧困率は、最近では 16% を越え、マスコミでも話題になりました。数多くの育ち盛りの子どもたちが十分な栄養を与えられず、お腹を空かせている現状があります。中には、ポテトチップスをご飯の上に振りかけて食べる子どももいるそうです。一見すれば、矛盾するこれらの問題に足り組んでいるのが、フードバンク北九州ライフアゲインです。今年度から、八幡中央商店街の空き店舗を利用して「もがるか」という、子どもが自由に集まることができ、ワイワイガヤガヤとしゃべることができる空間、さらにはおいしい料理を食べることができる空間ができました。これらのフードバンク北九州ライフアゲインと一緒に活動を行ったり、独自に食品ロス削減プロジェクトを開いているのが食品ロス削減学生プロジェクトです。参加大学は 3 大学（西南女学院大学、九州女子大学と北九州市立大学）を数え、それぞれの特徴を出しています。

### 実施事業【プロジェクト】



### 【活動報告書】

- ・ 10 月 8 日(土)と 9 日(日)は北九州市の環境の祭典であるエコライフステージです。フードバンク北九州ライフアゲインと一緒に食品ロスに関するアンケートを行うと同時に、子どもたちとその保護者を対象に自分だけの缶バッジ（マイ缶バッジ）を作りました。
- ・ 10 月 15 日(土)と 16 日(日)は西南女学院大学の学園祭があり、栄養があり、食材を最後まで使い切ったミネストローネを販売しました。非常に好評で準備していた量は早々と完売しました。
- ・ 2 月 23 日(木)フードバンク北九州ライフアゲインの実際の活動を知るために、スタディツアーを実施しました。  
ちなみに、昨年度の本プロジェクトが評価され、第 10 回北九州市 3 R 活動推進表彰「3 R 活動推進奨励賞」を受賞しました。

### 【活動実績】

- ・ 3 大学合同定例ミーティング 年 6 回
- ・ 月に一度の大学ごとのミーティング  
(なかには企画間近ではもっと頻繁に会議を開く)
- ・ 10 月  
エコライフステージでの缶バッジづくりとアンケート調査の実施  
西南女学院大学での食材を使い切ったミネストローネづくりと販売
- ・ 2 月  
フードバンク北九州ライフアゲインの活動を知るスタディ・ツアーの実施

## みんなが住み易いまちづくり PRJ (プロジェクト参加者数 13 人)

〔概要〕高齢者だけでなくそこに暮らす全ての世代の人が幸せになることができる地域を包括した街づくり（地域包括ケア）に関わる PRJ です。老人養護施設を拠点に次世代教育をテーマに活動しています。月一度のマルシェの開催やコミュニティ FM の運営など、地域の人々と一緒になって楽しみながらみんなが住み易い街を目指しています。



## まちあるきプロジェクト (プロジェクト参加者数 9 人)

〔概要〕「まちと人との接着剤の役割になる」を目的に活動をしてきました。どうしたら多くの人がまちに出向いてもらえるかを真剣に考えて取り組んだことで、少しずつまちの魅力を多くの人に伝えることができ、県外の方も参加してくださるようにもなりました。



## リノベーションまちづくり (プロジェクト参加者数 10 人)

〔概要〕リノベーションのメッカといわれる北九州。「まなびと ESD ステーションでリノベーションを学生の手によってやってみよう!」と、施設内にキッチンを作りました。地元の建築士の監修のもと、「みんなでごはんをつくって、みんなでごはんを食べる」をコンセプトにリノベを行いました。月に 1~3 程度、他世代の人々が集い食事 & コミュニケーションを実施しています。



## 藍島プロジェクト (プロジェクト参加者数 11 人)

〔概要〕学生が環境問題について考えることを目的として、大学生が子ども会の子どもたち・保護者と共に北九州市内若松区沖の藍島に出かけ、様々なアクティビティ等の環境教育を行いました。学生が企画、運営をすることで、藍島の魅力を島民と一緒に引き出すとともに、ESD について体系的に学ぶことができました。



## まるごと韓国 PRJ (プロジェクト参加者数 10 人)

〔概要〕韓国プサンの韓国海洋大学に出かけ共同セミナーを開き、他に韓国について興味があることを調べてきました。また、北九州 ESD 協議会主催のインジェ・ソウルの旅にも参加しました。



## 手づくり PRJ (プロジェクト参加者数 10 人)

〔概要〕必要なものはお店で購入すれば簡単に手に入るようになりました。ただ、生活が便利になっても“モノを大切に”するココロ”はいつまでも持ち続けたいものです。そこで、残り布を使ってオリジナルのグッズを楽しみながら作っています。さらに、最新のコンピュータミシンでオリジナルの刺しゅうを施し、最先端の物作りにも挑戦しています。



## 北九州ご当地グルメ活性プロジェクト (プロジェクト参加者数 7 人)

〔概要〕北九州のご当地グルメを通してシビックプライド醸成を目指したプロジェクトです。『北九州ご当地グルメ連絡協議会』というご当地グルメのまちおこし団体の方々と共に、北九州・福岡にある 7 大学から集まった学生と共に活動しました。主に、イベント活動を通して、ご当地グルメの PR など行いました。



## 科学対話プロジェクト (プロジェクト参加者数 28 人)

〔概要〕「ESD における科学対話プロジェクト」をメインテーマとし、地球環境、自然環境、環境保全に関する活動（参加体験型、探求型の”サイエンス・プログラム”）を開発し、展開しています。小・中学生や市民に環境教育プログラムを提供し、地球、自然をテーマにした科学対話を行い、未来への可能性を考えます。



<まなびと講座参加人数>

	日付		北九州市立大学	九州栄養福祉大学	九州共立大学	九州工業大学	九州国際大学	九州歯科大学	九州女子大学	産業医科大学	西南女学院大学	西日本工業大学	10大学以外の大学	大学生以外	計
前期	5月8日	ESD理解～「自分たちは微力だけど無力ではない」を考える～	21	4								3		34	62
	5月22日	《グローバルな視点で地球を知る》～1つしかない地球～	16	4								3		0	23
	5月29日	《ローカルな視点で社会をぶ》～みんなが住みやすい社会～	19	4								3		0	26
	6月12日	《食から自分を考える》～豊かにたのしく「食べる」こと～	17	4								3		0	24
	7月3日	微力だけど無力ではない 私たちが考える未来～みんなで創るジブンの未来～	18	2								3		0	23
	前期計		91	18	0	0	0	0	0	0	0	15	0	34	158
後期	10月30日	「Think globalact くまもと！」震災に負けないフェアトレードシティの挑戦	10	9	2							20			41
	11月6日	Goldの真実、スマホの真実	13	10	5							14			42
	11月13日	北九州ESDの種を探そう	14	12	6							15			47
	11月20日	ESDの種・聞き書きカフェ	12	7	6							13			38
	12月4日	微力だけど無力ではない～あなたのESDの種見つけ～	13	6	5							13			37
	後期計		62	44	24	0	0	0	0	0	0	75	0	0	205
合計		153	62	24	0	0	0	0	0	0	90	0	34	363	

<まなびと講座アンケート>

- たくさん声や思いに触れ、そして事実を知ることを通して初めて見えてくるものがあるなと思いました。(5/8)
- 知るだけなら一人でも可能ですが、自分とつなげて、それを周囲と共有することで私たちにできることは何かがあるか考えることができました。(5/22)
- 障害のある方々とともに暮らす社会を考えていけたことが大変良かったです。(5/29)
- 当たり前食べていたがこれからは感謝という気持ちで食べていきたいと思いました。(6/12)
- あまり意識していなかった自分にとって大切なものに気づいたり、他人の人生設計の話を知ることがとても勉強になりました。(7/3)
- 自分と同じ立場である学生達が、自分たちができることを積極的に活動していることに感銘を受けました。
- ワールドカフェの活動は机に言葉を書いていくスタイルがとてもおもしろかったし、多くの人の意見を知れて、視野が広がりました。(10/30)
- 持っている人は、持っている責任があるという言葉が心に残りました。自分は持てる人としてこれからの生活を考えて過ごしていきたいです。(11/6)
- 自分たちが住んでいる、または利用している北九州の環境を変えてくれた人たちのおかげで今普通に生活できている事に感謝したいと思います。(11/13)
- 貴重な話を聴くことができ、今後の人達に継承していきたいと思いました。とてもためになる話でした。(11/20)
- 様々な種人さんの話を聴くことができ貴重な経験をさせてもらい、とてもためになることが多く、素晴らしいかったです。(12/4)

<まなびとキャンパス参加人数>

日付	講座名	外部との共催	会場以外	学生											大学生計	合計	
				北九州市立大学	福祉大学	九州栄養大学	九州共立大学	九州工業大学	九州国際大学	九州歯科大学	九州女子大学	産業医科大学	西南女学院大学	西日本工業大学			10大学以外
4月16日	idea+ コーディネーター育成ゼミ vo.1 企画を作る		○	18				1								19	19
4月23日	idea+ コクラdeシンカン ideaFarm 小さなiを育てよう			16											1	17	17
5月14日	学生 × ダイバー			11			1									12	12
5月28日	idea+「聞いて、歩いて、作って、食べる。」 ～自分だけの、こがねカレー～		○	7	14										2	16	23
6月4日	学生 × デザイナー～美味しい食事で健康に～			6			3	1				1				11	11
7月9日	idea+【小倉百景シリーズ②】カメラを持って出かけましょ。 ～写真からみる小倉の台所～			2	8			1								9	11
7月9日	九州電力主催「学生の皆さんとの対話の会」			2			2	2	1							7	7
8月18日	idea+『できるようになりたい』をかなえる～浴衣講座～		○	15												15	15
10月29日	idea+市場にちょっとスパイスを♪～カレーからはじめる魅力づくり～		○	2	8											8	10
11月12日	学生 × ワーカー			2	12											12	14
12月3日	私たちのみらいトークショー			12			1					1				14	14
12月10日	idea+ナンバー1よりオンリー1?! ～自分だけのオリジナルマップ～		○	3	7											7	10
12月10日	ガーベラ まちへでかけよう! ～もしオレがニンプになったら?～			10												10	10
12月15日	ミライ創造塾 100万人に1人の逸材に聞く ～今を幸せに生きるちからは～			7	4		1	1	3			1				10	17
12月18日	idea+【小倉百景シリーズ③】カメラを持って出かけましょ。 ～写真からみる夜の小倉のまち～			5	5							1				6	11
1月21日	恋愛コミュニケーション入門 ～男は電子レンジ型、女はオープン型!?～	○	○	31												31	31
1月22日	本格ガトーショコラづくりに挑戦! ～1人でカフェを経営した大学生に学ぶ～		○	15											3	18	18
1月29日	Gear Up! ～ジブンをちょっとのぞいてみよう～		○	8												8	8
2月18日	北九州ピオトープ講座		○				8									8	8
	合計			28	202		9	8	8	1		3	1		6	238	266

<まなびとキャンパス概要>

まなびとキャンパスでは、ESDをテーマにした多様な講座やESDの視点の気づきをもたらすイベントを実施しました。今年度取り組んだもののうち、主要なものの内容をご紹介します。

6月4日（土）学生 × デザイナー～おいしい食事で健康に～

●一人暮らしの大学生を対象に、健康について食の観点から見直してもらうことで、普段意識したいと思っている栄養面や自炊等を実際に行動に移してもらえるきっかけを提供するため、市内で飲食関連の仕事をしている社会人2名をゲストに迎え、食をテーマとしたワークショップを行いました。

10月29日（土）市場にちょっとスパイスを♪～カレーからはじめる魅力づくり～

●学生・社会人の方を対象に、実際に市場を歩くことでしか伝わらない魅力を発見し、多くの人に発信し市場のリピーターを増やすため、小倉北区にあるこがね市場でカレー店を営業し、若い世代が働けるまちづくりに取り組む方をお招きし、講座を開催しました。

## 【ESD フォーラム2017】

### < 概要 >

北九州市との共催で、2月25日に開催しました。テーマは「マイプロジェクト～みんなで創るジブンの未来～」。自分が幸せに暮らせる社会を自分たちの手で創ることについて考えることが目的でした。自分なりのプロジェクトを実践している大人と学生、高校生の活動内容を聞きました。“大人のマイプロジェクト”として株式会社ボーダレスジャパン代表取締役社長の田口一成さんにお話しいただき、大学生2名、高校生4チームに発表してもらいました。高校生は同日の午前に北九州市の主催のマイプロジェクトアワード北九州大会で23チームの中から選出され全国大会に進出する生徒たちです。

沖縄や島根、広島などから集まった生徒の発表はどれも熱の入ったとても素晴らしいものでした。大学生は、昨年開催したミライ創造塾に集まった学生の中で、半年間活動をした学生たちです。夢を持ってその実現に向けて生き生きと活動している話を聞くことで、全員が未来に向けてワクワクした気持ちとなり、一体感のある時間を過ごすことができました。



## 【マイプロジェクト】

### < 概要 >

高校生の数だけマイプロジェクトがある！東北の高校生の「自分たちもなにかしたい！」という想いから生まれた『マイプロジェクト』。身近なことから世界のことまで、高校生だからやってみたい、自分だからできる、そんな高校生を応援する全国横断のプロジェクトです。北九州での開催は今年で2年目。始まりは9月。北は岡山、南は沖縄から55名の高校生がふれあいの家北九州に集まり2泊3日の合宿を実施。3日間は23名の大人、そして14名の学生も参画。「自分とはいったい何者か？」をテーマに、それぞれのマイプロジェクトを考えていきました。参加者からは「私はまだ自分が何者であるか、という答えを導き出せていませんが、「こういう人」になりたいという目標がマイプロで見つかりました。」という声も。2月の北九州大会での発表を経て、4組の高校生たちが全国大会へと進みました。



## 【ミライ創造塾】

### < 概要 >

ミライ創造塾とは、北九州に住む・通う大学生が、大学では学べないような「自分自身のリーダーシップ&クリエイティビティの発掘」「地域や社会の可能性・課題点を見る力」「持続可能な未来を描いて行動すること」に気づき、身に付けるプログラムです。2016年10月8日(土)にスタートアップ研修を行い、14名の大学生が参加しました。研修の中で「自分事業計画」を立てプレゼンテーションし、スタートアップ研修後はプレゼンした内容についてチャレンジしました。熊本震災の影響もあり、震災支援や防災意識向上に関するアクションが生まれました。





## まなびとリーダー認定式

### <概要>

11月10日(木)に北九州市立大学の14名が、「まなびとリーダー」の第5期生として認定されました。まちなかESDセンター長のあいさつや運営委員会の講評、認定者によるあいさつが行われ、日頃の成果を再認識する機会となりました。

これまで北九州市立大学62名、西日本工業大学2名、九州女子大学3名の合計67名が認定され、持続可能な社会づくりへ向けて活躍する次世代の人材が育ちつつあることを実感する場となりました。

### <学生代表のコメント>

私はこれまで北九州において『学生まちあるきプロジェクト』でイベント等の企画・運営をしてきました。特に各回テーマを決めて、北九州のまちを歩き小倉周辺の見所を紹介する『個人まちあるき』等、日頃の活動を通じて多くを学ぶことができました。今後もまなびとリーダーとしていろんな活動に取り組んでいきたいです。

(北九州市立大学地域創生学群1年 多賀 優花)

## まなびとマイスター認定式

### <概要>

この度、第2期の「まなびとマイスター」が誕生し、3月27日(月)に認定式が行われました。認定されたのは、北九州市立大学地域創生学群2年の稲富美妃さんと枝光比菜乃さん、同学群3年の磯杏子さんです。認定式では、認定者の活動の紹介等が行われ、これまでの取り組みの成果を実感する場となりました。今後認定学生が大学・地域・家庭等多くの場所で持続可能な社会づくりへ向けて活躍することを期待しています。

### <学生代表のコメント>

・入学してから2年間「キタキュープロモーション」に参加しており、市内10大学の学生がやりたいことを実現するための出会いを提供するイベントを実施してきました。マイスターとして評価されたことを光栄に思います。これからも新しいことに挑戦し、同時にこのように評価していただける後輩の輩出にも一生懸命取り組んでいきたいです。

(北九州市立大学地域創生学群2年 稲富美妃)

・「idea+」で学校では学べないことを学ぶため、地域の方を先生に招く講座を企画・運営してきました。最初は人前で話すことがすごく苦手でしたが、社会人の人脈もでき、今では楽しく活動できるようになり、好きなことに巡り合えてよかったです。今後も人脈を広げ、市外に出て多くのことを学び、北九州でそれを実現し、後輩にも伝えていきたいです。

(北九州市立大学地域創生学群2年 枝光比菜乃)

## まなびとマイスター制度(北九州ESD実践人財育成・認定事業)について



## 【参加プロジェクト】カンボジア教育支援プロジェクト

### カンボジアの子どもたちから学んだ、本当に大切なこと



堤 小夕里さん

西南女学院大学 人文学部 3年

#### Q1. プロジェクト参加のきっかけは何ですか？

高校時代に、テレビで芸能人がカンボジア支援をしているのを見て、なぜカンボジアなのかという疑問から始まりました。私も同じ一人間として何かできるのではないかと、カンボジアのために何かやりたいと思っていました。大学入学後、先生がカンボジアの支援をしていたこともあり、1年生の時から活動に参加したのがきっかけです。

#### Q2. 参加して成長したと思うことはありますか？

まず、ひとりでは何もできないことや自分が当事者の意識を持つ大切さを学びました。仲間がいなくて何もできないことが多くあり、クッキーを作り、出店をして得た売り上げをカンボジアの支援金に充てる現在の活動も、仲間がいたからこそ考えることができ、実際に運営できたと感じています。

また、リーダーとしての資質、人のまとめ方を学びました。人数が多くなるに従い、日々の活動の中で、メンバーの役割分担やモチベーション意識を高めるために何をすべきかを学びました。

さらに、他者への思いやりを持つことができるようになったと感じています。以前は人と関わるのはあまり得意ではありませんでしたが、カンボジアの子どもたちと関わり、彼らの笑顔を見ていくうちに、他人に対する思いやりを持ち、その人の幸せを願うようになりました。カンボジアという異国の子どもたちに想いをはせて日本で活動することができたのが、自分にとっての成長だったと思います。

#### Q3. 印象に残っている出来事などありますか？

初めてカンボジアを訪れ、これまで寄付をしてきた小中高一貫の学校を訪問した時のことが印象に残っています。言葉もあまり通じない中で、日本の遊びや折り紙等を紹介すると、向こうの子どもは笑顔で一緒に遊んでくれました。これまで鉛筆や絵本等の「モノ」で子どもたちを幸せにしようと考えていたのですが、実際に現地に行き、子どもたちとのふれあいを通じて、大切なのは「ヒト」であり、相手のことをちゃんと考えているという「想い」を伝えることが本当の支援であると感じました。カンボジアにはそこに暮らす子どもたちの幸せがあり、私達は上からではなく、現地の子どもの幸せの水準を上げられるように同じ歩幅で共に歩み、協力していくことが、私たちが望む活動の形だったのではないかと思います。

#### Q4. 今後やりたい事についてお聞かせください。

学校の図書館の一部に本棚を設けて私達が寄付した本の文庫を作る予定ですが、その文庫をいっぱいにして、カンボジアの子どもたちがいつでも手にとって読めるようにしたいです。

## 【参加プロジェクト】カタリバ、グリーンバード、 ギラヴァンツ北九州プロジェクト、新歓イベント

### 初めての新歓イベントプロデュースで学んだ調整力



菅原 千春さん  
北九州市立大学 地域創生学群 4年

#### Q1. プロジェクト参加のきっかけは何ですか？

大学の実習で参加することになったのがきっかけです。そこからカタリバとグリーンバード、ギラヴァンツ北九州プロジェクト等横断的に参加することになりました。

#### Q2. 参加して成長したと思うことはありますか？

ものごとを進める時の力がついたと考えています。経験を積んでいく中で、今取り組んでいる活動を進める際に、目標達成のため必要なものをイメージできるようになりました。また、ゴールを明確に持つことの重要性を感じるようになりました。

#### Q3. 印象に残っている出来事などありますか？

一つのプロジェクトに長くいるのではなく、様々なプロジェクトに全般的に参加していました。そのおかげで新歓イベントの運営することになった時のことが印象に残っています。参加者に届けたい想いと各プロジェクトの企画とのマッチングができるよう担当者へ要望を伝えるなどの活動はこれまでにない経験でした。2週間のイベントを運営する中で、自分の立ち回りや役割分担の方法等調整を学びました。またこれまで自分が全てやらなければならないと考えていましたが、新歓イベントを行う中で、他の人に任せることができるようになりました。この経験はその後のインターンシップの際にも活かされました。

#### Q4. 今後やりたい事についてお聞かせください。

来年就職ですが、地域活動にはこれからも参加していきたいです。自分自身大学の時にセンターがあったからこそ成長できたので、学生が活動をする際に成長してもらうため、個人の経験が深まるようなサポートをしたいと思います。

## 【参加プロジェクト】カタリバ×upple プロジェクト

「自分のためより他人のために」一歩踏み出せた、一週間の子ども向けキャンプ



河本 千晴さん  
九州女子大学 人間科学部 2年

### Q1. プロジェクト参加のきっかけは何ですか？

●カタリバ：1年生の頃、大学の先輩からカタリバへの参加を勧められました。カタリバのイベントに行ったときに、他の団体に関わるのも楽しいかもしれないと思い参加しました。

●upple：説明会に出席した友人から誘われ、イベントに行ってみたのがきっかけです。国際関係のボランティアに興味があり、子どもも好きだったので参加しました。

### Q2. 参加して成長したと思うことはありますか？

元々リーダーになりたいと思っていましたが、活動を始めてリーダーになるべき人とそうでない人がいることに気づきました。自分は後者ではないかと思い、自分のことをしっかり知りたと思うようになりました。また、最近カンボジアの活動をしているのですが、以前よりは人に仕事を任せられるようになったと感じています。さらに、色々な人の話を聞いて自分と違う意見も参考にするようになりました。

### Q3. 印象に残っている出来事などありますか？

1週間子ども向けのキャンプをしたときに自分のことよりも、周囲のことや参加している子どもの成長を考えている自分に気づきました。初めて参加した時は、「他人のために」というより「自分のために」している部分がありました。しかし、2回目の活動で、自分よりも「誰かのために」行動していると気づいたときに、初めて相手に対して何かできていると感じました。その後、カタリバに参加した時に、自分が学んだこともありましたが、それよりも自分が相手にとってどうだったのかを思うようになりました。相手にとって有意義な時間を自分は提供できたのかを考えるようになりました。

### Q4. 今後やりたい事についてお聞かせください。

今後は自分が関わりたいと感じたことに主体的に挑戦していきたいです。今国内外での子どもの教育系支援に興味があり、今後は、放課後支援などを行っている所で自分から動いて挑戦してみたいです。

カタリバではこれまで、キャストとして参加することしかできませんでしたが、今後は単なる参加者としてではなくスタッフとして、より深く関わっていきたいと思います。

## 【参加プロジェクト】 キッチンリノベーション



古森 弘一さん  
株式会社 古森弘一建築設計事務所  
代表取締役

●キッチンリノベーションへの参加のきっかけや、  
学生との関わりについてお聞かせください。

きっかけは 2015 年北九州市が主催の地方創生を目的にした高校生向けイベント「ゆめ未来ワーク」の中で大学生が企画した「夢見る大人のトークライブ」に関わったことです。働くことの楽しさについて高校生と話をする機会を大学生が設定してくれました。

今回改めて大学生が来社し、「まなびと ESD ステーションが大学生にとって、より魅力的な場所になるために、何があったらいいか？」を建築設計を専門とする私と一緒に考えたいので力を貸して欲しい」との相談を受けました。その日から三ヶ月間 10 人の大学生との話し合いを重ねました。関わった大学生の話を聞いてみると、多くの学生は将来に対して漠然とした不安を抱えていて、もっと仕事をする事の喜びや、生きていくことの楽しさとは何なのか？を知る機会が欲しいといった要望が強いことがわかってきました。その後、おいしいものを囲みながら楽しく大人と対話ができるカウンターキッチンを作りたいとの意見が出て、「大学生や高校生がご飯を作るので食べに来ませんか？」と素敵な大人を誘うことができるようにしようということになりました。

設計は、九州工業大学の建築工学の学生に任せました。コストに限りがあるため、実際の施工は、プロの大工さん 2 人と 10 人の大学生で、2 日間のワークショップで作りました。設計を担当した学生は時間が経つにつれ、どんどんこだわりが強くなり、人が囲むキッチンにするためまっすぐなカウンターにしなかったことや鳥居のような結界をデザインしたことは、結果として上手く機能しており、上出来です。また、大工さんとの昼休みの交流のなかで、楽しい仕事ばかりではないこと、積極的に関わることでより仕事は楽しくなることなどを教えて貰いました。やはりいつもそうですが、ワークショップに深く関わったメンバーほど大きな収穫が得られたと思っています。

今回“食べる”をきっかけに多様な人々が集う場所としての素敵なキッチンが完成しました。今では連日、年齢を問わず多くの方が出来上がったキッチンを囲んで語り合っています。ここで多くの大人と関わりあい、話を聞き、仕事は楽しいということを知って貰えることを願っています。

## <学生の成長>

### (1) まなびとプロジェクト（地域実践活動）

広範なテーマを対象とするESDを推進するため、環境・福祉・国際社会・食育等、様々な分野における連携大学の強みを活かしたプロジェクトを実施し、学生とセンター及び連携校の教員が、地域の人々の協力のもと、実践教育を通じた課題発見能力・解決能力、高度な協働的コミュニケーション能力の向上に取り組みました。

行政やNPO等から多数の協働依頼を受け、プロジェクト数は、毎年25前後と、当初目標の15を大きく上回りました。また、そのような実践的な地域連携教育を、大学の垣根を超えて取り組むことで、新たな大学連携の形を生み出すことができました。

プロジェクトを推進するにあたり、学生は多くの課題に直面し、どのようにすれば解決するのか、解決に向けた人的・物的リソースをどのように集めてくるか等、試行錯誤を繰り返しつつその課題解決に向けて活動しました。

協働先をはじめとする地域の人々からは、「学生が関わることで、様々な関係者を巻き込み、大きな流れが生まれた」「学生の本気と向き合うために、改めて自分の人生に本気で向き合うことができた」など高い評価を得ることができました。

### (2) まなびと講座（単位互換講座）

<前期・後期の計>

(単位：人)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	合計
受講者数	165	202	104	471
単位取得者数	126	149	69	344

連携大学の専門分野を集結してESDの知識や必要性を学ぶ「まなびと講座」を開催しました。

平成 26 年度からは、連携大学による「授業の相互実施及び単位互換に関する包括協定」のもと、これまで6校において、471名の学生が講座を履修しそのうち344名が単位を取得しました。

これにより、より多くの学生に対し、ESDへの理解・必要性を伝えることができました。また、各大学の教員や学生等多くの人々が考えを共有し議論を深めることにつながり、大学間連携の強化を図ることができました。

アクティブラーニングを積極的に取り入れ、様々な社会的課題を取り上げた講義を通じて、学生はESDの知識や必要性をはじめ、自身が学んでいるテーマ以外の社会的課題を学ぶことができ、当事業の重要な目的を果たすことができました。

### (3) まなびとマイスター制度

平成 26 年度から、ESDに関する一定の知識と実践経験を積んだ学生に称号を付与する認証制度「まなびとマイスター制度」を開始、ESDに関する講座を受講し、半年間の実践経験を積んだ受講生に「まなびとリーダー」を、北九州市環境首都検定の合格など専門的知識と長期間の実践経験を持つ市民、学生に「まなびとマイスター」の称号を付与しました。

プロジェクトに参加している大多数の学生が「まなびとリーダー」に申し込むなど、本事業参加へのモチベーションの向上につながりました。

認定数

(単位：人)

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	合計
リーダー	32	20	15	67
マイスター	—	2	3	5

### (4) 社会人基礎力調査「PROG」

参加学生は活動前後に社会人基礎力の伸張を把握する「PROG」を受験し、その後の解説会等を通じて担当教員とともに自己分析や目標設定を行ってきました。

これまでのテストの結果、とりわけ、情報分析力や非言語処理力の伸長が顕著でした。

## <学生・市民への普及・啓発>

### (1) まなびとセミナー・まなびとキャンパス

参加人数					(単位：人)
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	合計
学生	360	760	369	238	1,727
社会人	211	346	618	28	1,203
計	571	1,106	987	266	2,930

学生及び市民を対象に、「誰もが先生になり誰もが学生になれる相互学習による生涯教育」で地域について考える「まなびとセミナー」を実施しました。

地域住民に対しESDに資する様々な講座を提供し、地元のNPOや、行政をはじめ、IT、商店街等多様な分野から多くの講師を招聘し、地域との連携を図ることができました。

### (2) 市民フォーラム

参加人数				(単位：人)
平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	合計
89	77	85	100	351

### (3) 広報

センター利用者数					(単位：人)
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	合計
学生	7,813	12,080	12,005	10,982	42,880
社会人	5,268	9,036	7,923	7,538	29,765
計	13,081	21,116	19,928	18,520	72,645

視察受入数					(単位：箇所)
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	合計
大学関係者	5	12	8	5	30
その他	1	1	7	0	9
計	6	13	15	5	39

メディア掲載実績数					(単位：箇所)
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	合計
新聞・雑誌	4	12	28	15	59
その他	5	6	11	8	30
計	9	18	39	23	89

## <成果>

### (1) 講座・プロジェクト等実施によるESD人材の育成

これまで、学生は、ESD関連講座を通じてESDの知識や必要性を学び、プロジェクト実践活動を通じて課題発見能力・解決能力、高度な協働的コミュニケーション能力を身につけてきました。また、「まなびとマイスター制度」において、ESDの知識と実践力を兼ね備えた人材を育成できたことは、今後のESDの推進に大きく寄与すると考えています。

### (2) 一般市民へのESDの波及

開所以来多くの一般市民にも、センターを使用していただきました。その数は利用者全体の約4割強を占めており、センターが市民へ普及していると思われます。

全市民的な認知度を上げるために様々な方面での検討を重ね、「まなびとキャンパス」を、市民が自ら講座を開発し、誰しもが先生になり誰しもが生徒になることができる学びの場に変え、地域のまちづくりについて考えるきっかけを提供したことにより、一般社会人の参加者が更に増加し、市民参加が促進されました。

### (3) 小・中・高等学校へのESD教育の普及

センターでは、プロジェクトや市民フォーラムを通じて、持続可能な社会の次世代の担い手である小・中・高等学校へのESD教育の普及にも努めました。実践活動では、「科学対話プロジェクト」における、小・中学校への出前授業や、「藍島プロジェクト」での子どもたちとの環境学習等、また、「グリーンバードプロジェクト」での清掃活動等を行ってきました。さらに、「マイプロジェクト」等を通じて、高校生に対し、行動することの大切さを伝え、地域課題の解決への意欲向上を図りました。そして、市民フォーラムを通じ、持続可能な未来にむけて自分にできることを真剣に考える機会を提供し、ESDとは何かを伝えることができました。

### (4) 地方創生への寄与

センターでの活動を通して学生たちは、地域の中で役割を担い地域のために活動することで地域運営の主体者となることができました。また、新しい発想力と行動力を持った学生たちが地域で活動することで、その地域に新しい風を吹き込み地域の運営に寄与することができました。

地域の方々からは「参加学生の想像以上の働きが事業成功の一助となった」「自分たちが思いもつかないアイデアをたくさんいただいた」と一定の評価をいただき、地域の課題解決に寄与し、何らかの地域活性につながったのではないかと考えています。

このように、地域課題解決に学生が役割を持って推進し、まちなかの賑わいづくりを創出することで、地方創生へ微力ながら寄与することができました。

## <外部評価>

### ○外部評価委員会

外部の学識経験者及び6つのステークホルダーで構成された「評価委員会」を年1回開催して、年間を通じた活動の状況や成果について報告し、事業内容や運営について評価を受けました。「教育改革・学生の成長：A」「市民へのESDの普及・浸透：B」「マネジメント・連携：A」など、高い評価を受けると同時に、有益なご意見をいただき翌年に反映することで、効果的かつ効率的な事業実施や運営を展開することができました。

### ○文部科学省評価

平成27年度の中間評価では総合評価「A」<計画通りの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる>、また28年度のフォローアップ評価でも「長期的、総合的な地域教育戦略に基づいたプロジェクトとして特に優れている」という高い評価を受けました。

## <今後の展望>

これまで5年間の事業により、ESDについての普及・啓発はかなり進んだと考えています。

ESDの活動は、ユネスコが推進する国際的なものであり、今後とも、大学間連携という枠組みを維持し「ESDの全市民的普及」を更に推進しつつ、特に教育機関におけるESDの普及に対し機能強化を図る必要があります。これからも本事業を継続発展させ、学生の学びのみならず地域の活性化に結びつけ、更にはESDを北九州から国内外に推進していきたいと考えています。

そこで、「ESDの全市民的展開」という共通のミッションを掲げる北九州ESD協議会との共存の可能性について議論を重ね、その審議の中で重点的に取り組む事項のひとつとして、ステーションの存続が確認されました。また、北九州市の「まち・ひと・しごと総合戦略」にセンターの継続実施によるESDの全市民的展開が書き加えられ、今後の継続発展についての方向性を見出したところです。

今後とも、北九州ESD協議会や北九州市等のステークホルダーと協働して運営体制の整備を行っていき、たくさんの皆様と連携しながら、地域の活力向上に繋がる取組みを積極的に推進していきます。

そして、この事業で得られた成果を活かし、地球の未来を担うたくましい人づくりを進めていきたいと思えます。







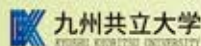
■連携 10 大学 (50 音順)



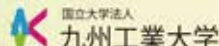
北九州市小倉南区北方 4 丁目 2 番 1 号  
<http://www.kitakyu-u.ac.jp/>



北九州市小倉北区下町津 5 丁目 1 番 1 号  
<http://www.knwu.ac.jp/>



北九州市八幡西区自由ヶ丘 1-8  
<http://www.kyukyo-u.ac.jp/>



北九州市戸畑区仙水町 1-1  
(戸畑キャンパス)  
<http://www.kyutech.ac.jp/>



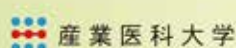
北九州市八幡東区平野 1-6-1  
<http://www.kiu.ac.jp/>



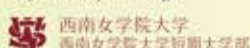
北九州市小倉北区真鶴 2-6-1  
<http://www.kyu-dent.ac.jp/>



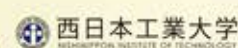
北九州市八幡西区自由ヶ丘 1 番 1 号  
<http://www.kwuc.ac.jp/>



北九州市八幡西区医学生ヶ丘 1 番 1 号  
<http://www.uoeh-u.ac.jp/>



北九州市小倉北区井堀 1 丁目 3 番 5 号  
<http://www.seinan-jo.ac.jp/>



北九州市小倉北区室町 1-2-11  
(小倉キャンパス)  
<http://www3.nishitech.ac.jp/>

■お問い合わせ

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業



# 北九州 まなびとESDステーション



[まちなか ESD センター] 〒802-0006 北九州市小倉北区魚町 3 丁目 3-20 中屋ビル地下 1 階  
[manabito@kitakyu-u.ac.jp](mailto:manabito@kitakyu-u.ac.jp) tel:093-522-0071 fax:093-522-0072

<http://manabito.kitakyu-u.ac.jp>

まなびとESD

検索

